

読響

YOMIKYO
Yrs.
1962-2022

待ち人は、秋とともに。

3年半ぶりに、あの笑顔も。
キレッキレの演奏、待ち遠しく。

色彩感あふれるサウンドで魅了するフランスの名匠

指揮= **シルヴァン・カンブルラン** (桂冠指揮者)

欧米で活躍するチャイコフスキー国際コンクール優勝の大師

チェロ= **アンドレイ・イオニーツァ**

バルトーク：舞踏組曲

ビゼー：交響曲第1番 八長調

ダルバヴィ：チェロと室内管弦楽のための幻想曲集 (日本初演)

サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番 イ短調 作品33

リゲティ：ルーマニア協奏曲

読売日本交響楽団
第656回
名曲シリーズ

2022 10.19 (水) 19:00 サントリーホール
S ¥7,600 A ¥6,600 B ¥5,600 C ¥4,100

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

©Nikolaj Lund

SYLVAIN CAMBRELING
ANDREI IONIȚĂ Cello
BARTÓK: Dance Suite / BIZET: Symphony No. 1 in C major / DALBAÏE: Fantaisies pour violoncelle et orchestre de chambre (Japan Premiere) / SAINT-SAËNS: Cello Concerto No. 1 in A minor, op. 33 / LIGETI: VNSO Popular Series No. 656 / Wednesday, 19 October 2022, 19:00 / Suntory Hall
Conductor
Laureate



名匠カンブルランが描く、 フランスと東欧の 色鮮やかな音絵巻

チェロの大器イオニーツァが超絶技巧を披露！

2018年9月（土曜マチネシリーズ）公演

©読響



2017年11月「アッシジの聖フランチェスコ」公演

©読響



2019年3月（日曜マチネシリーズ）常任指揮者最終公演

©読響

カンブルランが、帰ってくる。2019年3月に常任指揮者を退任後、一昨年、昨年とコロナ禍で来日が叶わず、多くのファンが彼の帰りを待ちわびているはずだ。満を持して桂冠指揮者として初登場する。今回、ビゼーやサン＝サーンスといった得意とするフランスものに、バルトークとリゲティの民俗色豊かな作品を組み合わせ、独自のプログラムを展開する。“色彩の魔術師”カンブルランの真価が発揮されるラインナップだ。

冒頭はバルトークの「舞踏組曲」で幕を開ける。民謡の研究に情熱を傾けたバルトークは、東欧やアラブ風の異国情緒ただよう旋律に色とりどりの楽器を施し、祝祭感あふれる舞曲集を作り上げた。カンブルランの洗練された感覚は、管弦楽の豊かな音色を引き出し、華やかな幕開けを飾るだろう。続くビゼーの交響曲は、わずか17歳で書かれた意欲作。躍動するリズムを緩急自在に操るのは、カンブルランの得意とするところだ。明瞭で澁冽としたサウンドに期待が高まる。

後半二つのチェロ協奏曲では、チャイコフスキー国際コンクールの覇者イオニーツァが共演。これまで幾度と共演してきたカンブルランもその才能を絶賛する俊英だ。今年7月には、巨匠プロ

ムシュテットの推薦で3万人を超える大観衆の前でゲヴァントハウス管と共演するなど、近年ますます活躍の幅を広げている。

ダルバヴィは、巨匠ブーレーズも認めた現代最高峰のフランス人作曲家のひとり。パリ管など名門楽団のレジデントコンポーザーを歴任し、新作の度に注目を集めている。「幻想曲集」は前衛的な作風を持ちながら、親しみやすさを備えている。続くサン＝サーンスの協奏曲は、作曲家の鋭いインスピレーションが光る名作。チェロのさまざまな技巧を駆使しながら生き生きとした旋律を歌い上げるだろう。時代も趣も異なる二つのフランスものを、イオニーツァは才気あふれる弓さばきで流麗に弾きこなすだろう。名匠と俊英のエキサイティングな共演をお見逃しなく。

最後は、リゲティの「ルーマニア協奏曲」を。ハンガリー時代の民俗音楽研究がルーツになっており、冒頭のバルトーク作品とも響きあう。第2楽章の陽気で諧謔的な舞曲や、ヴァイオリン・ソロが活躍する第4楽章など聴きどころ満載の一曲だ。カンブルランの繊細なタクトは、管楽器から多彩な表情を、弦楽器から潤いある響きを生み出して壮大にコンサートを締めくくるだろう。

シルヴァン・カンブルラン（桂冠指揮者）

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年4月から桂冠指揮者の任にある。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデン・バーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者、シュトゥットガルト歌劇場の音楽監督などを歴任。現在、ハンブルク響の首席指揮者、クラングフォルム・ウィーンの名誉首席客演指揮者を務めている。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィルなど世界の一流楽団を指揮。17年11月には読響とメシアン「アッシジの聖フランチェスコ」を披露し、サントリー音楽賞に輝くなど、絶賛された。

アンドレイ・イオニーツァ（チェロ）

2015年チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、一躍注目を浴びる俊英。タイムズ紙で「10年に一人の逸材、最もエキサイティングなチェリストの一人」と絶賛され、欧州各地で活躍している。1994年ルーマニア生まれ。ハチャトゥリアン国際コンクール優勝、ミュンヘン国際コンクール第2位など多数受賞。これまでにゲルギエフ、プレトニョフらの指揮で、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、マリンスキー歌劇場管、チェコ・フィルなど世界各地の名だたる楽団と共演。ザルツブルク音楽祭などに出演するほか、カーネギー・ホール、ウィグモア・ホールなど著名なホールでのリサイタルや室内楽も高い評価を得ている。読響とは18年にカンブルランの指揮で共演し好評を博した。

読響日本交響楽団 第656回 名曲シリーズ

2022年 10月19日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

【学生券】 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB

<http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>